



おもちゃ百科図鑑

～あそびの今昔～



古き良き時代の思ひ出館の館内の様子



安田勝寿氏プロフィール

1969(昭和44)年八戸市生まれ
大学生時代より懐かしいおもちゃの収集をはじめ、ブリキ、超合金、ソフビ人形、ミニカー、プラモデル、駄玩具などを中心に約1万点のコレクションを保有する。全てのジャンルを網羅した全方位コレクションとしては、国内有数のコレクターの一人である。

貴重なおもちゃ群を身近に感じてほしいと願い、これまでにおもちゃ展示会を50回以上開催して、大変好評を得ている。2007(平成19)年には、青森県立郷土館でそのコレクションの全貌を紹介する「おもちゃ博覧会」が開催され、総点数6600点の迫力ある展示が、全国的に注目されるきっかけとなる。

2008年から3部作で公開された、唐沢寿明主演映画「20世紀少年」3部作全てに、コレクションの一部約200点が小道具として活用されるなど、近年その価値と評価が高まっている。

おもちゃは子どもの健やかな成長にとって、欠かせないものであるとの認識にたち、戦後の子どもの世界を現在までたどることにしました。

「おもちゃ」の語源は「手にもってあそぶもの」という意味の「もちあそび」に由来すると言われます。自分よりも大きな自動車や飛行機が小さく作られ、手のひらの上で自在に操ることができます。子供たちは、この小さなおもちゃの世界のなかで、大きく想像力を働かせるのです。

昔遊んだなつかしいおもちゃを見ると、子どものときに味わったおもちゃの感触や匂いまでもがよみがえってきます。昭和30年代以降は、テレビの登場によってテレビのヒーローがおもちゃの世界を一層にぎわせてくれました。

大量消費時代においては、これらのおもちゃが量産されると同時にそのほとんどが使い捨てにされる運命にありましたが、八戸市在住の安田勝寿(やすだ かつとし)氏は、このような運命を持つ当時のおもちゃを一つでも多く、次世代に残していきたいという一念で、この25年来こつこつと収集してきました。今回はその膨大なおもちゃコレクションのなかから約2,000点のおもちゃを紹介します。

また、当館が所蔵する青森県内を中心とした郷土玩具も展示し、趣き豊かなおもちゃの世界を紹介し

ます。時代を物語る懐かしくたくさんのおもちゃに囲まれながら、子どもからお年寄りまで、おもちゃを通じて自分の思い出を一時よみがえらせていただきたいと思います。(竹村 俊哉)

- 内容 第1章 郷土のおもちゃの味わい
第2章 路地裏の記憶
第3章 テレビヒーローの時代
第4章 リアルなおもちゃたち
第5章 デジタルの隆盛とアナログへの懐古

●期間 4月25日(金)～6月11日(水) 48日間

●場所 1階特別展示室(大ホール)

●時間 9:00～18:00

●観覧料 一般 310円(250円)
高校・大学 150円(120円)
中学生以下無料、障がいのある方は免除。
※()内は20名以上の団体料金。
こちらの金額で常設展も観覧できます。



—平成26年度 事業のご案内—

青森県立郷土館 上半期展覧会・事業予定



平成26年度 常設展示

- ・考古
- ・自然
- ・歴史
- ・民俗
- ・りんご
- ・先人
- ・体験ルーム
- ・風韻堂

開館時間

■4月1日～4月24日
9:00～17:00
■4月25日～10月31日
9:00～18:00

休館日

□4/14・24、6/12・20、
7/7・11、8/25、9/2、
10/20・23
〒030-0802
青森市本町2丁目8-14
TEL 017-777-1585
FAX 017-777-1588

	開催期間	展覧会
3月	3/1(土)～4/13(日)	企画展 新収蔵展 ふるさとの贈りもの 平成25年度に新たに当館に寄贈された資料をはじめ、これまで公開する機会が少なかった資料を中心にご紹介します。
4月	4/25(金)～6/11(水)	企画展 おもちゃ百科図鑑 -あそびの今昔- 郷土に伝わるおもちゃとあそびの歴史を振り返る企画展。昭和20年代から現在に至るまでのおもちゃとこどもたちのあそびの様子を中心にご紹介します。
5月		
6月	6/21(土)～7/6(日)	TTHAグループ主催 感動のシーンふるさと発信 青森県写真連盟50周年記念 写真展 今年、2014年(平成26年)に青森県写真連盟は50周年を迎えるのを記念して、会員など約230名が独自の視点で捉えた作品を展示します。また期間中に技術セミナーや講演会を開催します。
7月		
8月	7/12(土)～8/24(日)	TTHAグループ主催 ～小さな夢の世界・ミニチュアハウスへようこそ～ 「ドールハウス展 in 青森」 本場欧米での楽しみ方から、日本独自に発展したジャパニーズスタイルのドールハウスまで、人気作家による約80点の個性溢れる夢の世界をお楽しみ頂けます。また、ご当地作品として「太宰治生家・斜陽館」を制作し、展示する予定です。
9月	9/3(水)～10/19(日)	特別展 発酵食品パワー 私たちが口にする食物の多くは微生物を利用して作る発酵食品であり、有史以前から食べてきた長い歴史があります。その中には保存食や郷土料理となっているものもあり、伝統的な食文化である「和食」は世界無形文化遺産に登録されました。本展示会では、これまで風土に即して培われてきた発酵技術や伝統的な食文化を紹介し、健康に良いとされる発酵食品の価値を認識する機会とします。
10月		

- 土曜セミナー(毎週土曜日13:30～15:00/5月～)
- ミュージアム探検隊(土・日曜・祝日・春休み開催)
- 郷土館クイズラリー(夏休み・冬休みに開催)
- 自然観察会(5月25日・10月5日)
- 夏休みこどものくに(7月27日・8月3日)
- 授業に役立つ博物館研修(8月5日)
- 博物館実習(8月18日～8月22日)
- あおり街かど探偵団(9月27日・10月4日)

常設展観覧料

○通常期間(3月-10月) 一般310円、高校・大学生150円、中学生以下は無料、団体割引有り
※特別料金についてはお問い合わせ下さい。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/culture/kyodokan.html>



青森県立郷土館指定管理者

TTHAグループ

- ・株式会社東奥日報社
- ・株式会社東奥アドシステム
- ・株式会社日立ビルシステム
- ・青森設備工業株式会社

輝いた郷土の先人たち展示室リニューアル

実物資料が充実しました

当館3階先人展示室は、開設以来初めてのリニューアルを行いました。これまではパネルを中心とした展示構成でしたが、今回の展示替えでは実物資料中心の展示に改めました。

展示ケース6台増設に加え、掛軸や絵画を展示するための大型展示ケース1台を新設しました。人物紹介パネルも新たに製作し直し、13名の人物すべてに実物資料を対応させて展示し、それぞれの業績や人柄を思い起こすことができるように配置しました。従来からパネルで紹介してきた人物のほか、戦前の青森にアトリエを置いて制作活動を行った銅版画家の先駆者である今純三、八甲田山中のモリアオガエルの研究で知られた生物学者和田干蔵、幕末から明治の画家で開国間もない箱館の様子を描いた平尾魯仙を新たに加えました。

そのほか、過去に録音された先人の声を紹介するコーナー、パソコンによる108名の人物紹介については従来通りです。

今後、展示資料の追加・入れ替えを定期的に行い、できるだけ多くの人物を紹介していく予定です。どうぞご期待下さい。(佐藤 良宣)



掛軸・絵画用の大型展示ケース



左:先人展示室入り口
右:展示パネルと一体化した展示ケース

虹の上をとぶ船 完結編 公開展示

4月、当館の今年度の年間ポスターが発行され、掲載作品に『虹の上をとぶ船 完結編』が選ばれました。この作品は、八戸市立湊中学校の生徒たちが力を合わせて制作した縦2メートル縦4メートルもある大きな版画です。

作品を指導されたのは、坂本小九郎先生です。坂本先生は、1970年に八戸市立湊中学校に赴任し養護学級を担当、美術を指導しました。その成果として「船の一生」「虹の上をとぶ船」の版画集を制作、引き続き共同制作「虹の上をとぶ船総集編Ⅰ」「虹の上をとぶ船総集編Ⅱ」、「虹の上をとぶ船完結編」が完成しました。これらの版画は生徒の家庭の多くが漁業関係者であったことから、魚と港の人々との関わりに端を発し、やがては宇宙を含む壮大な世界へと発展する一連の物語となっています。完結編には、『船の一生』から『虹の上をとぶ船総集編Ⅱ』までの一連の版画集や共同制作作品の各イメージが結集された内容になっていて、太陽と月、

火山、ペガサス、サソリ、船など子供たちの心の奥底から湧き出した様々なイメージが共存し、壮大な神話を思わせるようなファンタジーの世界が創り出されています。まさに、本県の版画教育の中から生まれた名作のひとつと言えます。

今年度、常設展(3階)に展示しています。ぜひ、原画のもつ作品の魅力をご鑑賞下さい。(對馬 恵美子)



八戸市立湊中学校養護学級昭和52年度在籍生徒指導:坂本小九郎

青森県写真連盟50周年記念写真展開催

今から50年前の1964年に、十数名の写真愛好家によって青森県写真連盟は誕生しました。以来、今日まで受継がれ現会員は約250名になります。

50周年記念の写真展は、会員から応募された自由作品230点余をA3プリントの規格で展示する、アンデパンダン（無審査）展となります。被写体は、県内の四季をはじめ、民俗風土、人物や動物、祭りなど、会員の個性豊かな感性で捉えた多彩な作品となり、写真の楽しさをたっぷり味わっていただけるものと思います。

特別企画として、十和田市出身の写真家・和田光弘氏「十和田湖・奥入瀬・八甲田山それぞれの四季」をエントランスホールに展示します。さらに、期間中の土曜日には特別講演会とセミナーを行いますので、ぜひ、ご参加ください。また、50周年記念の企画として、抽選で会員の展示作品を5名様にプレゼントします。皆様のご来場をお待ちしております。
(声名 公雄)



Photo: Masatoshi Yoshijima

県立郷土館大ホール・昨年のプレ写真展

- ◆ 期間: 6月21日(土)～7月6日(日)
 - ◆ 時間: 9:00～18:00
 - ◆ 場所: 県立郷土館大ホール (入場無料)
 - ◆ 特別企画: 「十和田湖・奥入瀬・八甲田山それぞれの四季」
エントランスホール 写真家 和田 光弘氏
 - ◆ 講演会: 6月21日(土)(入場無料)
13:30～「私と写真」 写真家 和田 光弘氏
 - ◆ セミナー: 6月28日(土)(入場無料)
10:00～「写真作りのワークフロー」 写真家 柳本 史歩氏
13:30～「ソフト・プリントについて」 写真家 柳本 史歩氏
 - ◆ 写真講座: 7月5日(土)14:00～(入場料1,000円)
会場: 青森市 ラ・プラス青い森 写真家 米 美知子氏
- 問い合わせ先: 県立郷土館 017-777-1585 声名

土曜セミナー5月の日程

- 5月 3日 企画展「おもちゃ百科図鑑ーあそびの今昔ー」連続講座Ⅰ
「トーク&おもちゃ実演会」
古き良き時代の思ひ出館 安田 勝寿 氏
- 5月10日 企画展「おもちゃ百科図鑑ーあそびの今昔ー」連続講座Ⅱ
「子どものおもちゃ・大人のおもちゃ」
青森県立郷土館研究員 増田 公寧
- 5月17日 企画展「おもちゃ百科図鑑ーあそびの今昔ー」連続講座Ⅲ
「あそびの今昔」
青森県立郷土館学芸課副課長 竹村 俊哉
- 5月24日 「青森駅誕生のころ」
青森県立郷土館主任学芸主査 佐藤 良宣
- 5月31日 「青森県の人形送り行事」
青森県立郷土館学芸課長 古川 実

※6月以降の予定は5月中旬に発表する予定です。

26年度の企画展・イベント情報

- ◆ 企画展「おもちゃ百科図鑑ーあそびの今昔ー」 4/25(金)～6/11(水)
- ◆ TTHAグループ主催「感動のシーンふるさと発信」
青森県写真連盟50周年記念 写真展 6/21(土)～7/6(日)
- ◆ TTHAグループ主催「～小さな夢の世界・ミニチュアハウスへようこそ～」
ドールハウス展 in 青森 7/12(土)～8/24(日)
- ◆ 特別展「発酵食品パワー」 9/3(水)～10/19(日)
- ◆ 「夏の自然観察会」 5/25(日) ※事前申し込みが必要
- ◆ 「夏休み郷土館クイズラリー」 7/19(土)～8/24(日)
- ◆ 「夏休みこどものくに」 7/27(日)および8/3(日) ※事前申し込みが必要
- ◆ 「土曜セミナー」 毎週土曜日13:30～15:00(5月から) ※無料
- ◆ 「解説案内」 毎週日曜、祝日 午後2時から常設展を案内

むかしなつ
昔懐かし

「おもちゃ百科図鑑」展
4/25～6/11 開催中

うん!

おもちゃの企画展
楽しそうだね

たくさん展示
されるんだよね!

みんなが使っていた
昔懐かしのおもちゃが

どんなの?

私が使っていた
おもちゃも
飾ってもらえるかな?

それじゃあ...

それ、おもちゃって
とべないよ!

え〜と... 今から
5036年
前の...

おもちゃとセット

郷土館の
「こびとたち」
きょうどかん

しゃごちゃん
私のおもちゃは
みんな手作りだよ

きのっぴょ
お花でかんむりを
作るのが得意よ

つかろう
かくれんぼの達人

ねぶきち
めんこつくりは
おれに任せろ!

りんたろう
りんごが出てくる
しりとりが好き

当館解説員S作